

平成 22 年 3 月 30 日

各 位

株式会社 札幌北洋ホールディングス
(コード番号 8328 東証第 1 部・札証)

札幌北洋グループ各社の新規格付取得について

当社及び当社の完全子会社である株式会社北洋銀行は、株式会社日本格付研究所 (JCR) 殿より、長期優先債務※の新規格付を下記のとおり取得いたしましたのでお知らせします。格付け理由等は別添のとおりです。

なお、現段階において具体的な発行計画はございません。

※長期優先債務格付とは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

記

社 名	長期優先債務格付	
	格付	見通し
株式会社 札幌北洋ホールディングス	A-	安定的
株式会社 北洋銀行	A-	安定的

以上



News Release

09-D-1179
2010年3月30日

株式会社札幌北洋ホールディングス（証券コード：8328）
長期優先債務新規格付：「A-」（シングルAマ付ス）
格付けの見通し：「安定的」

株式会社北洋銀行（証券コード：-）
長期優先債務新規格付：「A-」（シングルAマ付ス）
格付けの見通し：「安定的」

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり長期優先債務*の新規格付けをしましたのでお知らせします。

* 長期優先債務格付けとは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価（債券の格付け、ローンの格付け等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

発行体：株式会社札幌北洋ホールディングス

【新規】

（対象）	（格付）	（見通し）
・長期優先債務	A-	安定的

発行体：株式会社北洋銀行

【新規】

（対象）	（格付）	（見通し）
・長期優先債務	A-	安定的

【格付事由】

- (1) 札幌市に本店を置く第二地方銀行。資金量約6兆7,000億円は第二地銀トップ。都銀の旧北海道拓殖銀行と個人リテール層を得意とする旧札幌銀行が再編されたことで事業基盤に厚みがある。道内トップシェアを確保しているうえ地方公共団体の指定金融機関を多数受託するなど、地元におけるプレゼンスが高い。09/3期は有価証券の減損処理と与信費用の増加などにより大幅な赤字を計上した一方、改正金融機能強化法に基づき公的優先株による資本増強を実施した。
- (2) 道内総生産に占める建設業の割合が比較的大きいことから公共事業削減の影響が依然大きく、北海道経済は長期にわたって厳しい状況が続いている。ただ、札幌地区に限っては、一極集中の動きから人口が増加傾向にあり経済規模が大きく、法人・個人ともビジネスチャンスが比較的多い。
- (3) 個人預金の安定的な推移が調達基盤を下支えしている。利便性に配慮したインフラ展開により、圧倒的な店舗数とATMネットワークを有しているため、当行をメイン口座として利用する顧客が多い。一方、貸出について、中小企業向けは合併に伴うシェア調整などで09/3期に減少したものの、保証協会保証付貸出への注力などにより今期に入って増加に転じている。積極的な資金需要が見込みにくいなか、過度に信用リスクを抱えることがないか注視していく。
- (4) 規律ある与信運営のもと与信集中が比較的抑制されており、09年12月末の金融再生法開示債権比率は3.69%（部分直接償却を実施した場合は2.64%）と低い水準を維持している。分類債権が与信総額に占める

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル
<http://www.jcr.co.jp>

＜情報提供電子メディア（検索コード）＞

BLOOMBERG（和文：JCRA / 英文：JCR） REUTERS（EJCRA）
QUICK（和文：QR / 英文：QQ） JIJI PRESS 共同通信JLS

＜お問い合わせ先＞

情報・研修部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026



News Release

割合もさほど高くはなく、貸出資産の質は比較的良好である。

- (5) 市場部門では、株式やREIT、外国証券など比較的利回りが高く価格変動の大きい有価証券の割合を高め収益力を強化してきたが、グローバルな金融市場の混乱により、09/3期に減損基準を見直すとともに、国債等債券関係損失2,082億円、株式関係損失290億円を計上した。今後は経営強化計画に沿って国債中心のリスクを抑制したポートフォリオへの移行を進めていく。09年12月末のその他有価証券評価損益は730億円。変動利付国債の評価に理論価格を採用しているが、市場価格との差額267億円を勘案しても一定の評価益を確保している。
- (6) トップライン収益が伸び悩んでいるものの経費削減効果が大きく、09/4-12期（9ヵ月）のコア業務純益は319億円と前年同期比26億円増加した。コア業務純益ベースのROAは0.6%程度（年換算）と業界平均水準。09/3期の与信費用は大口先のダウングレードもみられたことからコア業務純益を上回る水準まで増加したが、09/4-12期はコア業務純益の3割程度と落ち着いている。ただ、景気低迷が続いていることから、引き続き注視していく必要はある。
- (7) 09年9月末のグループ連結のTier I 比率（国内基準）は6.87%。Tier I 資本2,390億円のうち、北洋銀行に注入された公的優先株が1,000億円。繰延税金資産の割合も大きく、自己資本は量の面、質の面ともに改善の余地が大きい。JCRは公的優先株の資本性について、買入消却による返済を前提として極めて限定的に評価している。
- (8) 北洋銀行の格付けは、地元における堅固な事業基盤、比較的良好な貸出資産の質、一定の収益力が支えている。一方、自己資本に占める公的優先株や繰延税金資産の割合が大きい点が格付けを制約している。現状の収益力や経費の削減余地、ローンポートフォリオを踏まえた与信費用の見通しなどから、一定の最終利益を安定的に確保していく可能性は高いとJCRはみている。内部留保蓄積の進捗と、それを支える基礎的な収益力の動向が今後の格付け上のポイントである。当行が経営強化計画に掲げるトップライン収益の拡大や経費削減などの合併効果、貸出増強に伴う信用リスクの状況と与信費用の動向などを注視していく。なお、持株会社の格付けは、ダブルレバレッジ比率の水準、固定的な経費を安定的な収入で賄う収支構造などを踏まえて構造劣後性を反映していない。

以 上

（チーフアナリスト 大山 肇・アナリスト 宮尾 知浩）

本件格付けを行うにあたり適用した主要な格付け手法は弊社のウェブサイト(<http://www.jcr.co.jp>)に「コーポレート格付けの手法」として掲載されております。格付け手法は追加・変更されることもありますが、その場合は、時系列的に掲載します。本リリースの公表日と格付け手法の公表日(各手法が有効となった日)とを照らし合わせた上で、上記格付け手法をご参照ください。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、商業ペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア（検索コード）>

BLOOMBERG（和文：JCRA / 英文：JCR） REUTERS（EJCRA）
QUICK（和文：QR / 英文：QQ） JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026